

研究・調査報告書

報告書番号	担当
8	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Alcohol consumption and physical health-related quality of life in older women using the transformation of SF-36 to account for death. 高齢女性における飲酒と身体面での健康という意味での生活の質との関連(死亡との関連も含めて) -Medical Outcomes Study の調査票 (SF-36 変形版) を用いた検討-	
執筆者 Furuya H, Yong AF, Powers JR, Byles JE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Nihon Arukoru Yakubutsu Igakkai Zasshi.2008;43:97-109.	
キーワード quality of life, SF-36, physical component score, moderate alcohol consumption QOL (生活の質)、SF-36、身体的要素スコア、中等量の飲酒	
要 旨 目的： 先行研究によれば中等量の飲酒は健康によいとされているが、これについて高齢者で検討された例はほとんどない。高齢者における飲酒状況が身体的な健康という意味での生活の質 (HRQoL) の変化にどう影響するかについて検討を行った。 方法： HRQoL の縦断データを解析する際には疾患のある人を除くと結果が過大評価される傾向があるため、今回は除外規定を設けず、代わりにエンドポイントに死亡を入れた分と入れない分で解析をすることとし、HRQoL と経過にともなう HRQoL の減少について検討することとした。対象は Australian Longitudinal Study on Women's Health の参加者で、1996 年に行われた第一次調査の際 70-75 歳であった女性 12,432 人である。対象者は 3 年おきに追跡調査を受け (ベースラインを含め調査は 3 回)、6 年間追跡された。高齢女性にとっての有害な飲酒頻度をわりだすため、飲酒状況は 7 つのカテゴリーに分けられた。Medical Outcomes Study で用いられた調査票 (SF-36) により身体的項目についてのスコア (PCS) を算出し、PCS と死亡情報とを合わせた PCS (transformed PCS) の 2 つを本研究では HRQoL を表すスコアとした。必要な交絡因子を調整して各飲酒グループで HRQoL の変化を検討した。 結果： 6 年の追跡期間中に PCS、transformed PCS の両方で有意なスコアの減少が観察され、非飲酒者と稀にしか飲まない人では、他の飲酒頻度のグループに対しスコアは低値だった。非飲酒者と稀にしか飲まない人では、調査時期によってアルコールと PCS の関係は異なり、死亡した人の影響により 2 回目の調査データで解析すると結果は実際の関連より強く出ていた。しかし transformed PCS では上記のような調査時期の影響は見られず、3 回目調査のデータでは飲酒と HRQoL の量-反応関係がより顕著に表れていた。 結論： 非飲酒者では、死亡を含めて身体的 HRQoL 減少のリスクが高かった。中等量の飲酒は今回の検討においては有害ではなく、高齢女性では健康保持に良い可能性がある。	